

正解ない時事問題 親子で語り、学ぼう

先行きが不透明な時代。新聞を教材として「考える力」を養う学びが注目を集めています。朝日新聞社は2010年から新聞学習を手助けする総合教材「今解き教室」を発行してきました。その魅力は何か。どう使えばよいのか。教育アドバイザーの清水章弘さんに聞きました。

教育アドバイザー

清水章弘さん

進路選択でも職業選択でも、親世代の常識が通用しない予測困難な時代。子どもたちが親の手を離れて生き抜いていくために必要なのは「考える力」だと思っています。教育現場でも与えられた問いの正解を探す力ではなく、問いそのもの

を自分で考える力が求められるようになりまして。大学入学者の半数以上が利用している「一年内入試」では、志望理由、興味関心事項を明らかにすることが求められますが、これはまさしく自分のなかで問いを立てる行為と言えます。



しみず・あきひろ 東大院卒。東京・京都・大阪で勉強のやり方を教える塾「プラスティー」を運営する教育アドバイザー。

考える力は一朝一夕には身につきません。学校教育でも「探究」などの授業を行うようになりましたが、学校や自治体の取り組みには濃淡があり、小学生や中学生のころから家庭で考える力を養う取り組みが大切です。そこで重要なのが、時事問題について話し合うことです。時事問題に正解はなく、問いを立てる力をつけるのに最適です。時事問題への感度を高めることは世の中の大きな流れをつかみ、興味関心を広げ、複眼的思考を養い、ひいては考える力、生き抜く力を高めることにもつながるでしょう。

新聞は、そのためにぴったりのツールです。ニュースへの関心が高まるのはもちろん、言葉の力も身につきます。近年の入試では実用的な文章が重視され、また図表とセットにした読み取りの設問が増えています。身近だが少し固めの文章で図表もふんだんに使っている新聞は、そうした入試で求められる力を養うのに最適です。

ただ、新聞は子どもが興味を持ちづらく、親子ともに分かりやすくかみ砕いて伝えるのも正直大変という面もあります。「今解き教室」は、そういったデメリットをカバーできる学習教材だと思います。新聞記事をもとにした読解問題や図表の読み取り問題に加えて、ニュースの背景の解説や用語解説も充実しています。親子で一緒に時事問題を学ぶことができます。新聞社が自ら作る教材だけに、ニュース写真や図表などカラーのグラフィックもたくさん使われていて、子どもの興味を引きつける内容になっています。

「今解き教室」は時事の知識の蓄積や読解力の向上など入試対策としても役立ちますが、何よりも家族で社会について語り合う機会を作る教材だと思います。ぜひ時事問題をテーマに熱のあるおしゃべりをしてほしいですね。親でも簡単に説明できないこともあると思います。子どもと一緒に学ぶという姿勢が大切です。親子で、祖父母と孫で、社会の出来事について語り合う。その積み重ねが考える力、生き抜く力を育んでいくのです。

(福井洋平)